

今、ふくしまは・・・

聴こう・語ろう・見よう

原発被災地写真展・手作り作品展示即売とお話

「放射能が降った土地だけど、これまで注いだ思いやエネルギーも見て欲しい。反原発のデモに出掛け罵声をあびせ、かえって虚しくなった。でもこのくやしさをどうしたらよいのか・・・」

(有機農業を続けてこられたお百姓さんの言葉)

巡礼・巡業に出よう・・・

くやしさを昇華するには、どうしたらよいか。対立でなく、第三の道を探すには・・・

福島から出掛け、語ることも大切ではないか。巡礼・巡業に出ようー震災後、大熊町等から避難される方やボランティアの方に全館解放し、支援されてきた蓮笑庵の渡辺仁子さんが語っておられました。

渡辺仁子さん、着物リフォームで元気を取り戻された飯館村のお母さん達が作品と共に東海地区に来られます。皆さん変化しつつ、心が落ち着くことをしながら、方向を見定め歩もうとされています。震災から2年半。福島と言っても一口にくくれない、それぞれの状況があり思いがあります。お話をじっくり伺い、福島の今、ご一緒に見つめて下さい。

①メッセージ&販売



原発避難民を支えた、蓮笑庵からのメッセージ。故、画工人渡辺俊明さんの妻、仁子さんが語る。

②おしゃべり&販売



仮設住宅で頑張る飯館村の女性たち(カーネーションの会)が着物リフォームで元気回復! おしゃべり販売で生き方再発見

③飛田晋秀氏 原発被災地写真展

原発から5km、浪江町請戸の様子



原発被災地の時間が止まった町・村写真展。津波で破壊され原発で復興が止まった町!

【名古屋会場】

日時：2013年10月12日(土) am11:00～pm17:00

pm13:00より報告・お話し会(ティータイムもあります)

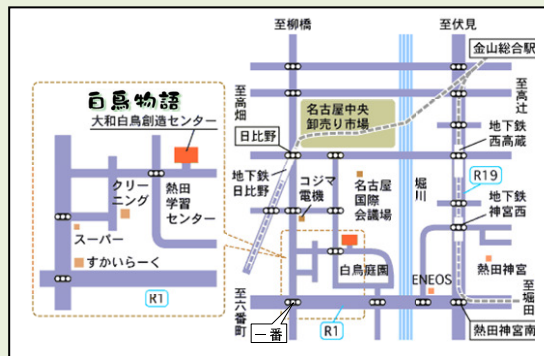
ボランティアで行かれている方も交え、皆さんのお話を伺い交流したいと思います。ご参加お待ちしております。

会場：大和白鳥創造センター(株ヒカリ4F)

名古屋市熱田区熱田西町1-21 052-688-0111

*参加無料ですが、会場準備の関係上ご連絡頂けると助かります

交流会：Slow Food's「白鳥物語」1F 実費2000円位(要予約)



名古屋駅～JR「金山総合駅」下車

地下鉄「日比野駅」下車1番出口歩10分

「神宮西」下車4番出口歩8分

問合・申込：エコランチ鶴田紀子 noriko@eco-branch.com TEL：090-3932-5751 FAX：052-509-1683

(株)にんじん伊勢戸由紀 iseto@ninjinclub.co.jp TEL：0568-71-4114 FAX：0568-71-1504

月日	会場とプログラム概要	時間	参加費	交流会
10月11日 (金)	「窯の広場」 愛知県瀬戸市朝日町11 電話 0561-85-6282 案内表面のプログラム	10:30 ～16:00	無料	あり 参加費実費
10月12日 (土)	「大和白鳥創造センター」 愛知県名古屋市熱田区熱田西町1-21 電話 052-688-0111 問合せ:鶴田 090-3932-5751 13時より報告・お話を行ないます。	11:00 ～17:00	無料	あり 参加費実費
10月13日 (日) 伊勢まつり	「伊勢まつり会場」 毎日新聞伊勢移動支局テント内 三重県伊勢市高柳商店街～伊勢市駅周辺 担当:亀田 090-8869-7997 特設テント内での展示、おしゃべり、販売。	10:00 ～17:00	無料	あり 参加費実費
10月15日 (火)	「木Key Point」 岐阜県恵那市長島町正家613-10 (協)東濃地域木材流通センター T:0573-25-6788 お世話:21世紀クラブ 案内表面のプログラム	14:00 ～20:00	無料	あり 参加費実費

出展関係者紹介

① 蓮笑庵くらしの学校

福島県田村市 代表 渡辺仁子

蓮笑庵は平成元年に民画家渡辺俊明氏が天地に絵を描くように、自ら設計し山を巧みに利用して建てた工房、アトリエ、応接空間、カフェです。平成17年氏が没後、広く解放され、3.11大震災で影響がありました。大熊町、双葉町方面からの避難ルートにあり、全館を開放して避難者の支援をしました。これを機に、くらしの学校として新たに活動を開始しました。

② いいたてカーネーションの会

もの知りで働き者で地域のみんなから頼りにされていた菅野ウメさん(80歳)が仮設住宅に入居してから閉じこもりになり人との関わりを拒んでいました。心配した佐野ハツノさんが、ウメさんが着ていた二部式の着物を見て「この作り方をみんなに教えて下さい」ということからカーネーションの会が誕生しました。手仕事が仮設住まいの人々に元気を与えることになりました。

③ 飛田晋秀氏 原発被災地写真展

福島県三春町の飛田晋秀氏は歯科技工士兼写真家として地元の田園風景や職人の姿を撮ってきました。報道写真家でないという思いから被災地にカメラを向けることはしなかった。震災から1年後知人から、この現状を撮ってほしいと懇願され撮影に！一時帰宅の被災者の車に乗せてもらい、原発被災地の様子を撮り続けた。時間が止まった町…原発被災地。今も復興の手も付けられず、家屋はますます荒れ、獣の棲みかとなっている。

④ 伝統工芸品の販売

福島の風評は、食べ物だけでなく人にも物にも及んでいる。原発被災者の車は敬遠され、避難地では放射能が伝染するとも言われていじめを受けました。伝統工芸品でさえ売上が激減！震災から3年目に入り、ようやく売上が戻りつつありますが、まだまだ震災前の水準には至ってない。そんな工芸品の一部をご紹介します販売させていただきます。職人たちの手仕事に触れて下さい。

主催者紹介:うつくしま ふくしま 福幸プロジェクト

2000年頃、名古屋にある環境事業エコ・ランチ内に誕生した「地球の笑顔プロジェクト」のメンバーが、3.11の大震災、原発事故被災者救済の何とかしなければ！何かしたい！という思いが高まり2011年6月に「うつくしま ふくしま 福幸プロジェクト」が誕生しました。自然力による放射能汚染土壌の再生、子供を守る活動支援、コミュニティ再生の取組みなどを通して「いのちが循環する社会づくり」を目指しています。